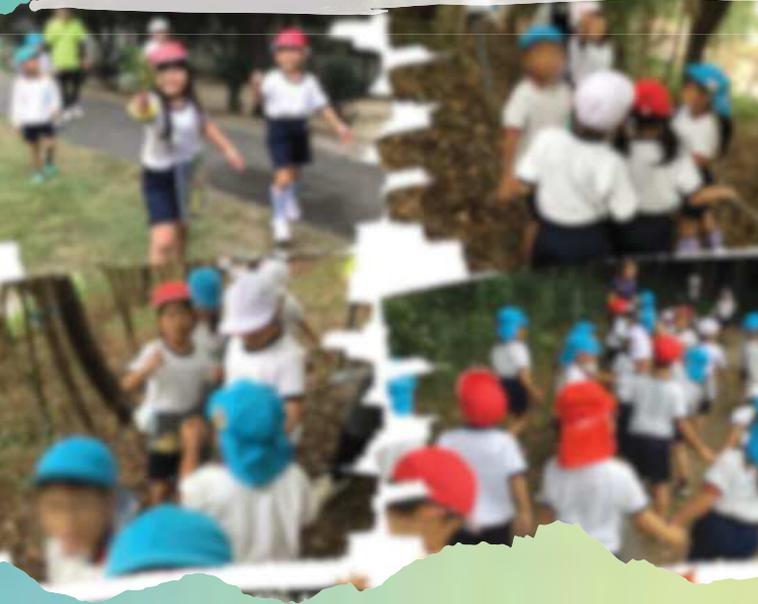




**幼保こ小の架け橋プログラム**  
**香里小地区 令和6年度共同研究テーマ**  
**「子どもの問いやつぶやきを引き出すしかけと支援」**



**令和6年11月8日（金）**  
**枚方市立香里小学校・香里幼稚園**

# 目次

01

## はじめに

- p.1 開催要項
- p.2 はじめに
- p.3 香里小学校令和6年度ランドデザイン

p.1~3

02

## 研究概要

- p.4 研究テーマについて
- p.5 校内研究スケジュール
- p.6~7 架け橋コンパスについて
- p.8 クローバー図について
- p.9~11 こうりっこスタートカリキュラム
- p.12 架け橋ロードマップ

p.4~12

03

## 学習指導案

- p.14~18 生活科「あきとなかよし」学習指導案
- p.19 幼稚園日案
- p.20~21 幼小交流活動「あきみつけ」実践事例
- p.22 5歳児の遊びの過程

p.13~22

04

## 研究協議会資料

- p.24~25 架け橋プログラム事務局より
- p.26~32 モデル地域の取り組みについて
- p.33~39 授業者・保育者より
- p.40~41 取り組みまとめQRコード集

p.23~41

05

## おわりに

p.42

令和6年9月吉日

枚方市立学校園長 様  
就学前児童施設長 様

枚方市立香里小学校  
校長 久保 聡美

令和6年度 枚方市学校園活性化推進校園事業  
幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業  
**公開授業・研究協議のご案内**

秋晴れの候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、本校では「枚方市学校園活性化推進校園事業」の推進にあたり、「学びの必然性のある単元デザインと評価の一体化～子どもの問いやつぶやきを引き出すしかけと支援～」をテーマとして、研究に取り組んでいるところです。また本校は文科省より「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の指定を受け、3年目となります。

つきましては、香里幼稚園5歳児と香里小学校1年生との生活科・交流活動の公開授業・研究協議を下記のとおり実施します。是非、多数のご参加をいただき、ご指導ご助言をいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

記

1. 日時 令和6年11月8日（金）午後1時45分から午後4時45分
2. 会場 枚方市立香里小学校 体育館
3. 内容 (1) 公開授業 生活科「あきとなかよし」

授業者 1年2組 渋田 将

保育者 5歳児 藤井 沙知子

- (2) 研究協議 ①架け橋プログラム事務局より3年間の取り組みについて  
②モデル地域の取り組みについて  
③授業者、保育者より  
④質疑応答

- (3) 指導助言 関西国際大学 准教授 椋田 善之 氏

4. 日程

受付	公開授業	休憩	研究協議①②③④	指導助言	
13:15	13:45	14:30	14:45	15:45	16:45

5. その他

- (1) 名札の着用をお願いします。（普段学校で使用されているものをご持参ください。）
- (2) お車での来校はご遠慮願います。自転車、バイクは運動場へ駐輪してください。

## はじめに

今年度は、3カ年にわたる文部科学省指定による「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の最終年度になります。

私は昨年度、教頭として香里小学校に着任し、2年目の取組から関わってきました。今年度は校長として3年目を引き継ぎ、園で培った学びの芽を小学校でさらに伸ばしていくことの大切さを実感しています。

取組の中で、一番大きく変化したのは、先生方の意識であり、授業です。これまで、接続期の子どもがどのように学んでいるのか、資質・能力がどのようにつながっているのかを、『クローバー図』をもとにして話し合う機会を持ってきました。『クローバー図』とは、就学前施設の先生方が大切にされている「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」から、地域で育てたい子どもの姿を話し合って作成したものです。交流活動と、話し合いの両方を積み重ねることによって、モデル地域の小学校と就学前施設とが徐々に互いを知ることができ、リスペクトを持ちながら交流活動の時間を持つことができるようになってきたのです。負担が大きかったことは間違いありませんが、実践された先生方からは「架け橋は、子どもたちにとっていいものだ」という声が聞かれました。これは驚きであり大変嬉しいことでした。

入学してきた1年生が、安心して学校生活をスタートさせ、自己肯定感を高める授業の中で過ごすことができれば、「生きる力」の芽をどんどん伸ばしていくことができるに違いありません。また、不登校やいじめなど様々な諸課題をこの自己肯定感を高める取組・授業の中で、未然防止ができれば、ウェルビーイングな学校に近づくのではないのでしょうか。

本日の公開授業は、同じ敷地内にある香里幼稚園との交流活動でしたが、モデル地域の他の就学前施設6園とのこれまでの交流も本授業に生きています。本授業だけでなく、これまでの取組紹介の中で、活用できる部分から活用していただき、各地域ならではの架け橋プログラムを実践していただければと思います。

最後になりましたが、関西国際大学 椋田准教授をはじめ、事務局、架け橋プログラムの取組に関わってくださったすべての方々に感謝の意を表します。

香里小学校 校長 久保聡美

### <学校教育目標>

心豊かでたくましく、自ら考え主体的に行動できる積極的な子の育成

### <本年度の重点目標>

一人一人が輝く、ウェルビーイングな学校にしよう

めざす子ども像「自ら学ぶ子」「やさしく思いやりのある子」「健康で明るい子」

香里小版ウェルビーイング

**「自分もまわりも  
生き生きした学校」**



自分なりにウェルビーイングに向けて考えたり行動したりできる

**「うりこマインド」**

を学校全体で育てる

- ・ 保幼小中連携によるなだらかな接続
- ・ スタートカリキュラムの充実

- ・ 自己決定できる子ども主体の学び

- ・ 自己決定の場の提供（どうしたいかを定める）  
（どの方法でやるかを定める）

- ・ ICT機器を効果的に活用した、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

**校内研究部  
学力向上部  
教科指導・授業**

- ・ 自己存在感の感受（自分は自分でいいんだ）  
（人の役に立った）

- ・ 様々な学年間の交流活動
- ・ 児童会活動「挨拶運動」

**学校行事部  
学校行事**

**うりこ  
マインド**

**児童育成部  
探究活動**

- ・ UD（ユニバーサルデザイン）を取り入れた教育環境

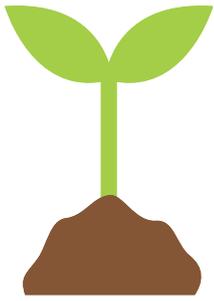
- ・ 心の教室やSSW、SCとの連携による相談体制、児童支援の

- ・ 通信やブログなどを活用した積極的な情報発信と、地域連携

- ・ 学校教育自己診断や学校運営協議会を活用した学校運営の改善

- ・ いじめや不登校を出さない人権教育の充実と、組織として未然防止、早期発見、早期対応の徹底

# 研究概要



## 香里幼稚園研究テーマ

『子どもの問いやつぶやきをひきだす仕掛け  
～教師の援助や環境構成～』



### 香里小学校令和6年度研究テーマ

学びの必然性のある単元デザインと評価の一体化  
～子どもの問いやつぶやきを引き出すしかけと支援～

やりたい!  
かきたい!  
つたえたい!

なんで?  
どうして?

学ぶって  
おもしろい!



本校は、文科省の「幼保こ小の架け橋プログラム」の指定を受け、今年度で3年目となる。2年目は1年目より理解は進んだものの、まだまだ1年生担任と就学前児童施設の取り組みとしての意識が強く、学校全体で取り組む研究とはなっていなかった。そこで、3年目は全職員が架け橋の学びを普段の学校教育に活かせるように、教科を指定せず、「子どもの姿」をベースとした研究テーマを設定した。幼児教育と小学校教育のつながりを考えることや幼児期の子ども主体の環境設定を学んでいくことが教師主導の授業からの脱却につながるヒントになると考えている。また、幼小の交流活動のように相手意識のある活動を単元に位置付けることで、学びの必然性が高まっていくと考えられる。

そして、昨今の流れを見ると、何を学ぶかだけでなく、どのように学ぶかという視点も重要視されている。架け橋プログラムの取り組みで生まれた「クローバー図」は、「幼児期までに育てたい10の姿」と「枚方市が大切にしている5つのCの視点」を就学前児童施設と小学校で議論を重ね、分類・整理したものである。それを活用した授業参観や就学前児童施設の見学に全教職員で取り組むことで、資質・能力を育む授業改善にもつながることを期待する。



## ◆メインテーマ「学びの必然性のある単元デザインと評価の一体化」の意図

### ①学びの必然性のある単元デザイン

学んだことを活かす単元の終末、実生活につながる知識・技能の獲得、子どもの問いや声で進む学習展開など、指導要領・教科書をベースにしつつも、「解きたい」「かきたい」「伝えたい」となるような子どものワクワクを生む単元構想を練る。

### ②指導と評価の一体化

子どもにつけたい力を事前に考えてから指導にあたることで、より一層、資質・能力を育む授業となっていく。そこで、ゴールモデルを事前に考えること、点数や出来栄ではなくパフォーマンスや過程でのみとりを充実させること、評価ルーブリックを活用することなど、その単元に入る前に学年間で評価について話し合う時間を確保していく。

## ◆学びの必然性を高める授業づくりの具体的方策

### ①相手意識・目的意識の設定

どの学年も、就学前施設・地域・企業・自治体・他校・他学年・同学年等、単元内に相手のいる活動を設定することで、「かきたい」「伝えたい」「より良いものにしたい」と子ども主体の授業へとつなげていく。

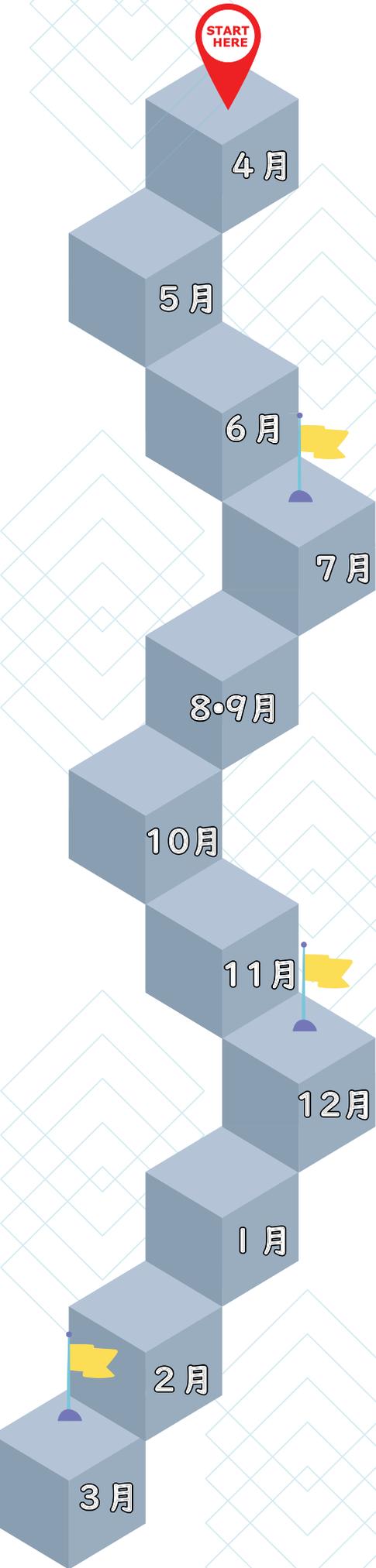
### ②自己選択・自己決定の場の保障

単元のゴールに向かう中で、個別か協働か、アナログかデジタルか等、学び方や表現方法も全員一律ではなく、子どもたちに自己選択・自己決定する場を保障していく。

### ③学びのユニバーサルデザインの充実

昨年度の取り組みを通して、「学力の二極化」が課題として挙げられており、「自己選択・自己決定＝ほったらかし」ではなく、どの子にとっても取り組みやすい配慮は必要不可欠である。シンキングツールの活用や多様な環境設定による指導の個別化など、個に応じた支援を充実させていく。

# 令和6年度 校内研究スケジュール



学校全体の取り組み	架け橋に関わる取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの土台づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムの実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研全体会（年度初め） 山下敦子教授によるオンライン学習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・架け橋モデル地区開発会議 「交流活動①の打ち合わせ」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年での授業づくり学年会① （国語科）</li> </ul>	幼小交流活動① 「なつとなかよし」（1年生各クラス）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小合同研修（7/22）</li> <li>・架け橋モデル地区開発会議 「交流活動①の振り返りと交流活動②の打ち合わせ」</li> <li>・就学前施設の見学（6/18,6/28,7/23～7/26）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研報告会 各学年の取り組み報告 （国語科）</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年での授業づくり学年会② 相互参観の実施（教科選択制）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小交流活動② 「あきとなかよし」（1年生各クラス）</li> <li>・5年生と勝山愛和香里ヶ丘幼稚園との交流</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・架け橋公開授業、研究協議会（11/8） 「あきとなかよし」</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・架け橋モデル地区開発会議 「交流活動②の振り返りと交流活動③の打ち合わせ」</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研報告会 各学年の取り組み報告 （各教科）</li> </ul>	幼小交流活動③ 「あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう」（1年生各クラス）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研全体会（年度末）</li> <li>・研究紀要の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流活動③の振り返り（各担任）</li> <li>・次年度スタートカリキュラムの見直し</li> </ul>

# 香里小学校地区

校区の目標『生活科を軸にした子どもたちの遊びと学びの接続』

		5歳児の育ち				
		I期(4・5月)	II期(6・7・8月)	III期(9・10月)	IV期(11・12月)	V期(1・2・3月)
年間通して行う活動・遊び		当番活動 動		絵本の読み聞かせ 生き物・自然との触れ合い	サークルタイム(話し合い)活 異年齢交流活動	
その時期ならではの活動・遊び		栽培活動 ルールのある遊び	栽培活動 水遊び	体育的な遊び リレー	様々な素材を用いた制作遊び 秋の自然に触れる活動 ルールのある遊び	劇遊び
生きる力(3つ)の核	小学校での学習活動例 異年齢・異学年 【5C】	音楽:はるまじとらう「さんば」 生活:はるまじとらう わたしのはな 体育:ゲーム	生活:なつとなかよし 体育:水遊び	体育:走・跳の運動遊び 体育:器械・器具を使っている運動遊び	音楽:せんりつてよびかけあそび「やまびこっこ」 生活:あきとなかよし 園芸:造形遊び	生活:もくろく2年生 体育:表現リズム遊び
知	【チャレンジ】 課題発見 根拠力 忍耐力 冒険心	●ルールがあることにより楽しみが生まれたり増したりすることに気付く。 ●絵本や図鑑などから興味関心を広げたり深めたり新たなことに気付いたりする。 ●春の季節を感じ、様々な事物・事象に関心をもつ。	●素材やモノ、自然物などの性質を遊びに取り入れる中で、量や数・文字の必要性に気付く。	●自分なりの目標をもって様々な体育的な遊びを楽しむ。繰り返して取り組む中で自身の課題を発見し、達成感をもつ。繰り返して取り組む。 ●夏や秋の季節を感じ、事物・事象に関心をもつ。	●秋の自然等、身近な事象を見たり考えたり扱ったりする中で、物の性質や数量・文字に対する感覚が豊かになる。 ●秋の季節を感じ、様々な事物、事象に関心をもつ。	●数量や図形、標識や文字、時間などに関わりのある事象をして、必要に応じてそれらを取り入れようとする。 ●四季の変化を通して、様々な事物・事象に関心をもつ。 ●文・図に合わせた台詞や必要な道具を考えた台詞や劇遊びを行う中で、言葉の力を付ける。
徳・人間性	【コミュニケーション】 社交性 表現力 共感性 自己抑制	●先生や友だちと対話する中で相手の話を聞く心をもつ。共感したり、自分と違う考えがあることを知ったりする。	●夏の遊びを楽しみながら、自分の思いを言葉で伝えたり相手の話を注意して聞いたりしながら遊びを進め、満足感を味わう。	●友だちとイメージを共有したり同じ目標をもつたりしながら、一つのものを作りあげていく達成感を味わう。	●秋の自然と関わる中で、発見したことを伝え合ったり、認め合ったりしながら遊びを進めていく。	●みんなで考え、話し合っていて、友だちとイメージを共有して遊びを発展させながら、他者と関わる力を身に付ける。
	【コラボレーション】 課題解決 他者理解 敬愛 協調性	●自分がやりたいことと同じ友だちと一緒に遊びを楽しむようにする。 ●目的に向かって友だちと一緒にルールを考え合う。	●集団の中で自分の思いを伝えたり、分からないことを聞いたりしながら遊びが豊かになるように協力して取り組もうとする。	●目的に向かっていろいろな友だちと関わり、思いを共有したり、励まし合ったりする。	●身近な自然物や事象に遠慮なく関わり、遊びがより発展するように友だちと協力する。	●協調性しながら、自ら進んで遊びや課題を進めていく。
思考力・判断力・表現力等	【クリティカルシンキング】 分析力 多角的・多面的な視点 批判的思考力 柔軟性	●身近な事象に積極的に関わり、気の合う友だちと共通の目的をもって考えたり、工夫したりする。	●新しい遊びや材料や道具と遊び、友達と関わりながら楽しむ。	●自分の経験したことや気付いたことを伝え合う中で、友だちの考えに触れ、思いを巡らせ、試行錯誤する。	●身近な自然物を遊びの中に取り入れて遊ぶ中でその特徴や性質に気付いて関心を深め、いろいろな方法で表現することを楽しむ。	●自分たちで考えたことを遊びの中でさらに工夫したり、新しい考えを生み出す喜びを味わったり、自分の考えをより良いものにしたりする。
身体	【クリエイティビティ】 柔軟性・独創力 【チャレンジ】 基礎となる力 (自己肯定感・自尊感情)	●身近な自然物や事象に遠慮なく関わり、遊びがより発展するように友だちと協力する。	●水や空などの感触遊びを存分に楽しみ、満足感や達成感を味わう。	●自分の身体をコントロールし、もっている力を発揮することで、自信をもつ。	●製作に必要なものを自分で考え、はさみなど道具を使いこなしながら工夫して活動を楽しむ。	●大きくなった自分を感じ、小学校への憧れや期待をもつ。

<p>自分たちが使う場所をきれいにしよう!</p>  <p>自分たちが使う場所をきれいにしよう! 掃除機を使って遊ぶ場所を掃除し、自分たちの手できれいにしよう!と子どもたちは真剣に取り組んでいます。</p>	<p>きれいな色み一つ付けた!</p>  <p>さまざまな色が出るように3色色紙を準備する</p>	<p>力を合わせて「よい、ジャン」</p>  <p>チームで役割を一つ一つにバトンをつなぎます。</p>	<p>秋の木の葉を使っておもちゃを作ろう!</p>  <p>グループの友達と相談して作りたいものを決めて、みんなで一緒に作ります。</p>	<p>みんなで子ども会議しよう!</p>  <p>表紙の意見に耳を傾け、自分の考えを言葉にして伝え合い、話を聴きます。</p>
--	--	---	---	--

先生同士の交流	<p>第1回モデル地域開発会議(4月)</p> <p>小学校教員の就学前児童施設見学(7月)</p> <p>第2回モデル地域開発会議(7月)</p> <p>幼小職員研修(7月)</p> <p>公開保育(6月)</p> <p>「夏となかよし」交流</p>	「秋となかよし」交流	<p>「秋となかよし」交流</p> <p>《横のつながり》6園交流</p> <p>公開保育(11月)</p> <p>3園交流</p>	遊びを通した授業体験
---------	--	------------	--	------------

## 架け橋期2年間のカリキュラム 遊びと学びの接続 資質・能力のつながり

# 架け橋コンパス

1学期		2学期					3学期						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
スタート期 うりこタイム(自由選択活動) スタート期の時間割		交流活動第1期					交流活動第2期			交流活動第3期		交流活動につながる活動・学習	
単元名(生活科を中心に)		交流行事 あうとなかよし					交流行事 あうとなかよし(発見)			交流行事 もうすぐ2年生		生活科の学習内容	
生活科につながる幼児期の遊び		・秋の自然にふれる活動					・様々な素材を用いた制作遊び			・様々な素材を用いた制作遊び		幼児期とのつながり	
ぐんぐんたいむ…新たな教科学習の第一歩に取り組もうとする。	新しい環境に慣れようとする。	春から夏の変化に関心をもち、それらを取り入れて遊びを工夫しようとする。	身の回りのことに目を向けて、身近な生き物を育てようとする。	異年齢と楽しみながら活動に取り組もうとする。	自然の変化に関心をもち、季節にあった遊びを工夫しようとする。	1年間を振り返り、上級生としてどのように関わっていくかを考えようとする。	知	【チャレンジ】 課題発見 根気強さ 忍耐力 冒険心	自立心 数量・図形・文字・標識に関する感覚				
にこにこたいむ…自分から新しい友だちと関わろうとする。	新しく出会ふ人と関わり、相手の好きなどに関心をもち、困ったときに変え合ったりする。	友だち(異年齢含み)や先生の発見や思い、気持ちに関心をもち、共有しようとする。	グループの友だちと自然の不思議を探求したり、意見を出し合ったりする。	5歳児の気持ちも思いやり、相手に対してはいいことを実践させていく喜びを友達と一緒に共有する。	遊びやおもちゃを削る活動を通して、友達に気持ちを寄り添ったり、認め合ったりしている。	グループの友だちと協議したり、他のグループの方法を取り入れたりする。	徳 人間性	【コミュニケーション】 社文性 表現力 共感性 自己抑制	言葉による伝え合い				
なかよしいたいむ…友達と協働して、遊びや学びに取り組もうとする。	小学校の施設の様子や小学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。	グループで協力しながら、考えをまとめたり、活動内容を決めていったりしている。	季節の変化によって生活の様子が変わることやその面白さ、自然の不思議さに気付いている。	異年齢との交流の中でアイデアを出し合い、身近な秋の自然や廃材を利用して遊びに使うものを作る。	自分の目標や取り組んだことを多角的・多面的に見つめ返し、自分自身の成長に気づいている。	これまでの成長やこれからの成長について考え、それを素直に表現している。	思考力・判断力・表現力等	【クリティカルシンキング】 分析力 多角的・多面的な視点 批判的思考力 柔軟性	【クリエイティブティ】 【フェリシティ】 基礎となる力 (自己肯定感・自尊感情) 主体的な生活態度				
うりこたいむ…一人一人が自分の好きな遊びを選び、安心して遊ぶ。	幼児期の体験をもとに、小学校生活に関心や見聞を持ち、規則正しく生活する。	夏の遊びや異年齢の交流を通して、自信をつけたり、満足感を味わったりする。	計画を立てて物事に取り組む、活動を楽しむ	幼児期に取り組んだ遊びを準備する	これまでの成長やこれからの成長について考え、それを素直に表現している。	体							
うりこタイム		前庭活動			あうとなかよし		おもしろ遊び			特に大切にしたいこと口			
													
載持活動		なつとなかよし								先生同士の交流			
・各クラス、各就学前施設によるクローバー図を活用した事前打ち合わせ、事後反省、交流活動シートの作成 ・夏季全体会(7月) ・夏季合同研修会(7月)		1年担任、支援担任、校内研メンバーによる就学前施設の視察			・各クラス、各就学前施設によるクローバー図を活用した事前打ち合わせ、事後反省、交流活動シートの作成 ・冬季全体会(12月)		・幼小研修(1月)			・各クラス、各就学前施設によるクローバー図を活用した事前打ち合わせ、事後反省、交流活動シートの作成 ・園訪問(2月)			

架け橋コンパスの詳細は  
右記QRコードより

SCAN HERE ↙

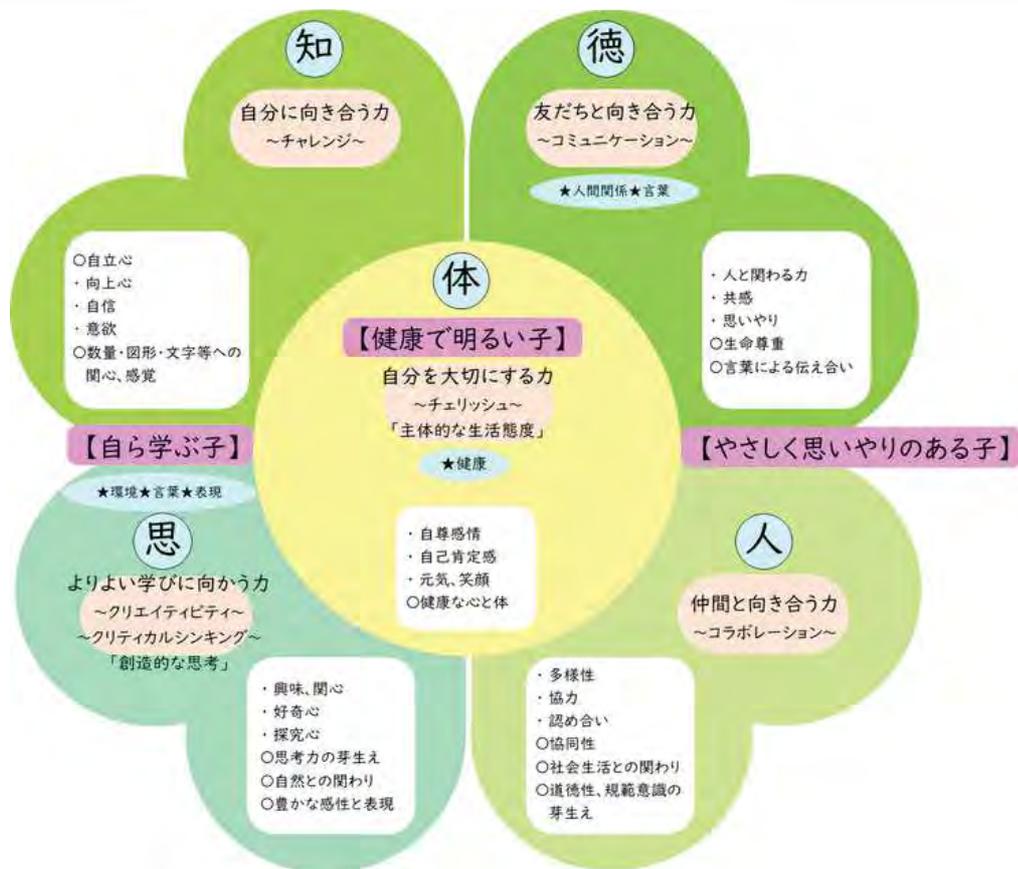


# ○クローバー図（5つの視点）の活用

【クローバー図】（令和4年度に香里小校区モデル地域で作成）

当初、『3つの資質能力』を共通の視点として考えていこうとしていたが、香里小校区モデル地域での協議を重ねていく中で、『自分を大切にする力』、『仲間と向き合う力』について、重点的に話し合い、5つの視点が必要であると考え、このクローバー図が作成された。

香里小地域で育みたい資質・能力  
豊かな自然環境を通して、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう力を育成する



## 大切にしたい視点

主体的・対話的で深い学びを支える  
先生のあたたかな子ども理解（子どもをみとる）力の向上

- ① 香里小地域で育みたい資質・能力を、5つの視点でまとめたクローバー図を活用して、小学校との交流活動を考え、めざす子ども像や育みたい資質能力について、幼保こ小間で共有し、各施設の教育内容の相互理解を深めていく。
- ② クローバー図を元に、ねらいを明確にし、保育を行い振り返ることで、子どもの育ちをみとる力を養い、教員の資質向上につなげていく。
- ③ 架け橋期のカリキュラムを見据えながら、幼児期の遊びをクローバー図の5つの視点で検証すると共に、幼児の主体性を育むための環境構成と教師の援助について考える。

# 令和6年度版

## こうりっこ スタートカリキュラム



### ◆幼児期の学びがつながる環境設定

スタートカリキュラムでは、幼児教育の成果を積極的に生かした子どもの成長をめざしています。そのため、入学当初の子どもの安心・成長・自立を目指すことが重要です。本校では、幼児教育の視点を生かした環境設定や教師の関わりを取り入れています。

#### ①手遊び歌などのアイスブレイク

幼児期に慣れ親しんだ歌やゲームを取り入れることで安心感や気持ちの切り替えにつながります。また、遊びの中の無自覚な学びから、教科学習の自覚的な学びへとつなげていきます。

#### ②ユニバーサルデザインの環境設定（板書・指示・掲示物・場の設定等）

一目でわかる安心感だけでなく、自分のことは自分でできるように自立を促します。

#### ③異学年交流（給食・そうじ）

はじめての学校生活をサポートしてもらうだけでなく、そうじ時間は年間を通じて交流を続けます。6年生を学校生活のロールモデルとし、自立へとつなげていくことを期待しています。

### ◆スタート期における1年生の時間割について

香里小校区では、就学前施設と連携して育てたい5つの力をクローバー図としてまとめました。よりよい保育や教育につなげるため、どんなねらいをもち、どんな環境設定にすべきかを検討しながら授業づくりを進めています。

1年生のスタート期にもその5つの力を育てることが意識できるように、他学年とは異なる時間割を設定しています。5つの活動時間を15分区分けとしながらも、それらを組み合わせながら運用することで、幼児期の学びを生かして教科学習へとつなげていくことを期待しています。それぞれの活動内容や育みたい力は以下の通りです。



#### ①うりこタイム

折り紙、塗り絵、読書、粘土、ブロックなど幼児期にも取り組んだことのある遊びを児童一人一人が選んで取り組みます。自由選択活動を通して、自分で遊び方や学び方を選ぶ力や自分を大切にする力【チェリッシュ】を育みます。

#### ②なかよしタイム

友達と協働して取り組む遊びや学び、仲間づくりの学習を行います。仲間と向き合う力【コラボレーション】を育みます。

#### ③ぐんぐんタイム

国語のひらがなの学習や算数の数の数え方など、様々な教科学習の第一歩に取り組みます。自分に向き合う力【チャレンジ】を育みます。

#### ④わくわくタイム

粘土を使って遊んだり、クレヨンや色鉛筆を使って絵を描いたりと創造的な活動に取り組む中で、技能の向上だけでなく自己表現ができる機会を設定します。よりよい学びに向かう力【クリエイティビティ】を育みます。

#### ⑤にこにこタイム

教科の学習とは別に、よりよい人間関係を築くために必要なマナー、学校生活や集団行動のルールなど、ソーシャルスキルの学習に取り組みます。友達や他者と向き合う力【コミュニケーション】を育みます。

### ◆モジュール学習的な時間割の設定

小学校は45分の授業が基本となりますが、スタート期は45分を3分割するモジュール学習的な時間割を設定しています。15分刻みの活動をつなげたり、組み合わせたりすることで、小学校生活に少しずつ慣れ親しめるようにしていきます。また、時期に応じて上記5つの活動時間の比率を変えていくことで、スムーズに45分の授業時間へとつなげていくことを期待しています。

#### <時間割の例：1週目>

	時間	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
朝学習	8:30	◎にこにこタイム ・ランドセルの出し入れの仕方 ・持ち物の確認 ・連絡帳の出し方、手紙の配り方	◎うりこタイム ・自由選択活動の説明	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎にこにこタイム ・教科書の片付け方 ・体操服の着替え方「すわりきがえ」、たたみ方、片付け方
	8:45					
1	9:00	◎にこにこタイム ・靴箱の使い方	◎にこにこタイム ・トイレ、手洗い場の使い方 ・お道具箱の使い方	◎ぐんぐんタイム ・お話の聞き方 「ゲー・ベタ・ピン・サツ」	◎なかよしタイム ・対面式	◎ぐんぐんタイム ・ひらがな「し」 ・宿題の説明
	9:15					
2	9:35	◎にこにこタイム ・下校時の地区別並び方 ・帰りの支度の仕方	◎わくわくタイム ・粘土、粘土板の使い方	◎わくわくタイム ・えんぴつの持ち方 ・はじめての名前	◎ぐんぐんタイム ひらがな「つ」 ・ひらがなを使った活動「つなぐ」 ・宿題の説明	◎にこにこタイム ・二測定 ・給食当番の練習 ・エプロンの着替え方、片付け方
	9:50					
	10:05		◎にこにこタイム ・下校指導	◎にこにこタイム ・下校指導		
20分休み	10:20				◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】
3	10:45				◎なかよしタイム ・スタートカリキュラムブックの活用	◎なかよしタイム ・スタートカリキュラムブックの活用
	11:00					
	11:15				◎にこにこタイム ・下校指導	◎にこにこタイム ・下校指導

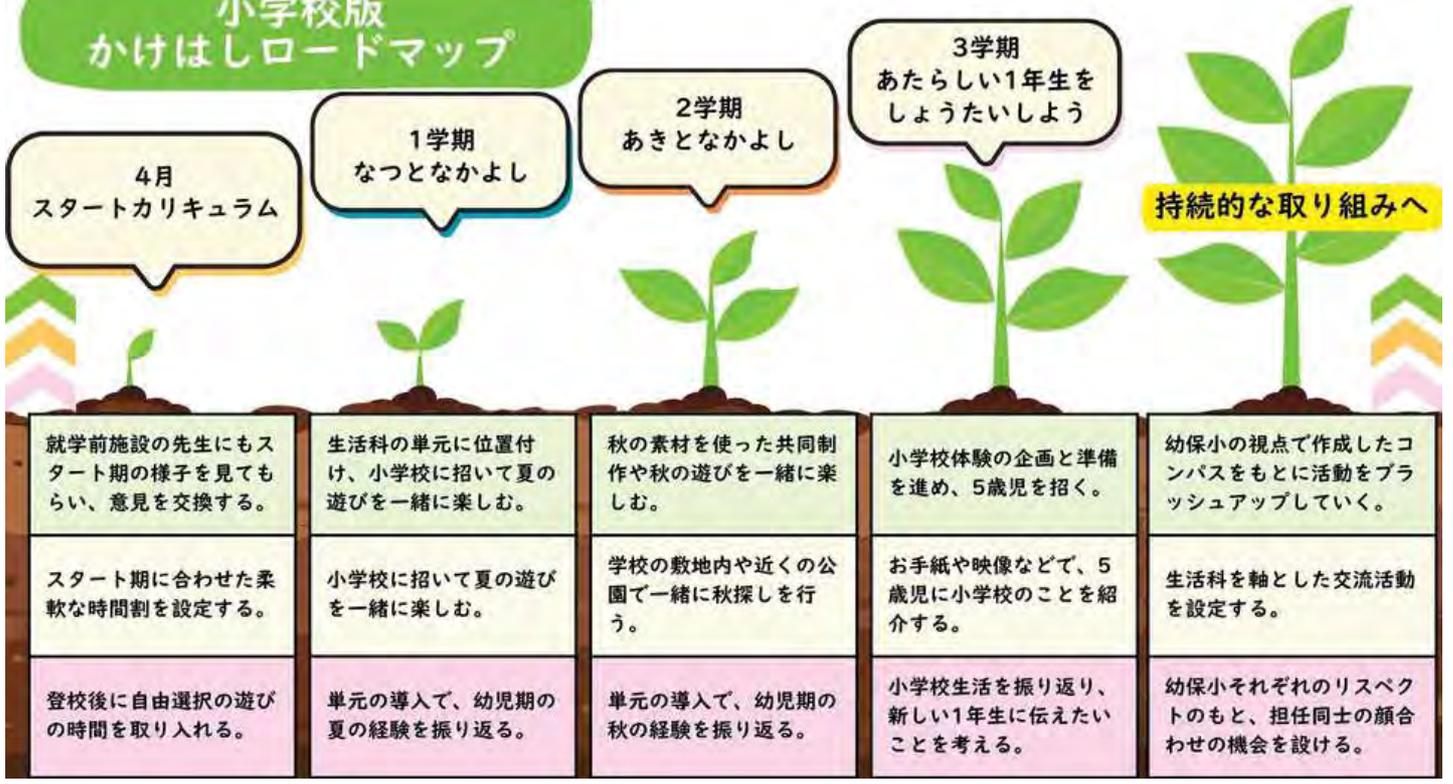
## 〈時間割の例：2週目〉

	時間	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
朝学習	8:30	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】	◎うりこタイム 【自由選択活動】
1	8:45					
	9:00	◎ぐんぐんタイム 「なかまづくりとかず」 ・たりかな	◎ぐんぐんタイム ・ひらがな「へ」	◎ぐんぐんタイム 「なかまづくりとかず」 ・おなじかずのなかまさがさそう ・かずをかこう	◎ぐんぐんタイム 「なかまづくりとかず」 ・かぞえよう ・ならべよう	◎ぐんぐんタイム 「なかまづくりとかず」 ・はないくつといくつ
	9:15					
2	9:35		◎わくわくタイム ・外体育について ・ころっこたいそう ・道具を使った運動			
	9:50	◎ぐんぐんタイム ・ひらがな「く」		◎ぐんぐんタイム ・ひらがな「こ」	◎ぐんぐんタイム ・ひらがな「い」	◎わくわくタイム ・ころっこたいそう ・道具を使った運動
	10:05					
20分休み	10:20	◎なかよしタイム ・遊び場の紹介	◎なかよしタイム ・遊び場の紹介	◎なかよしタイム ・遊び場の紹介	◎なかよしタイム ・遊び場の紹介	◎なかよしタイム ・遊び場の紹介
3	10:45		◎わくわくタイム 「きれいなあめ」 ・クレパスを使った活動	◎わくわくタイム 「あめがいに落ちたよ」 ・クレパスを使った活動	◎にこにこタイム ・職員室のまわりを探検しよう	◎ぐんぐんタイム ひらがな「り」
	11:00					
	11:15	◎にこにこタイム ・給食時間について ・6年生と給食準備				
4	11:35		◎にこにこタイム ・6年生と給食準備	◎にこにこタイム ・6年生と給食準備	◎にこにこタイム ・6年生と給食準備	◎にこにこタイム ・6年生と給食準備
	11:50					
	12:05					
給食	12:20					
そうじ	13:05					
昼休み	13:20					
5	13:45	◎なかよしタイム ・スタートカリキュラムブックの活用	◎なかよしタイム ・スタートカリキュラムブックの活用		◎なかよしタイム ・スタートカリキュラムブックの活用	◎わくわくタイム ・自己紹介カード
	14:00	◎にこにこタイム ・下校指導	◎にこにこタイム ・下校指導	◎にこにこタイム「地区児童会」 ・登校証で登校のルール確認 ・下校指導	◎にこにこタイム ・下校指導	◎にこにこタイム ・下校指導
	14:15					

## 〈時間割の例：1か月後〉

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝学習	◎うりこタイム	児童集会【オンライン】	朝学習	朝読書	朝学習
1	国語	国語	生活	算数	道徳
2	体育	生活	図工	国語	算数
20分休み					
3	音楽	体育	体育	生活	図工
4	国語	算数	国語	国語	国語
給食					
そうじ					
昼休み					
5	算数	国語	学活	音楽	国語

## 小学校版 かけはしロードマップ



遊びは学び

学びは遊び

## 幼児教育版 かけはしロードマップ



# 学習指導案

- ・ 小学校生活科  
「あきとなかよし」
- ・ 幼稚園 日案
- ・ 幼小交流活動  
「あきみつけ」 実践事例

# 生活科学習指導案

枚方市立香里小学校  
指導者 渋谷 将

1. 日時 令和6年11月8日(金) 第5校時(1時45分～2時30分)
2. 場所 体育館
3. 学年・組 第1学年2組(31名)
4. 単元名 あきとなかよし「あきとなかよし だいさくせん」

## 5. 単元目標

### 【知識及び技能】

秋の自然と関わる活動を通して、秋の自然のようすや夏から秋への変化がわかったり、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気付いたりすることができる。

### 【思考力、判断力、表現力等】

秋の自然と関わる活動を通して、秋の特徴やそのほかの季節との違いを見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができる。

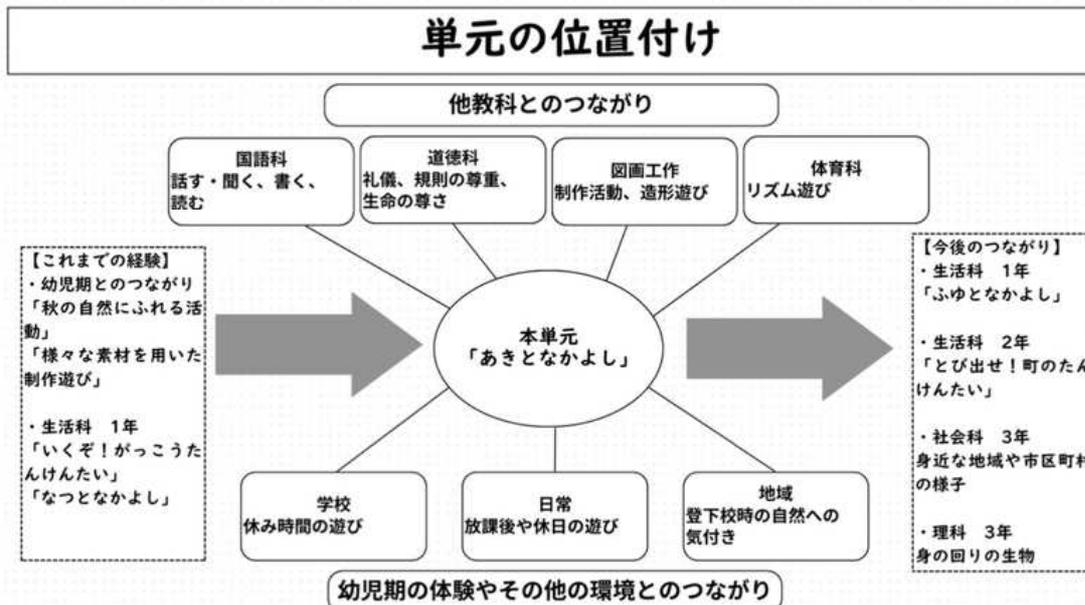
### 【学びに向かう力、人間性等】

秋の自然と関わる活動を通して、季節の変化に関心を持ち、それらを取り入れて自分の生活を楽しくしようとしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりする。

## 6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自然の様子が夏から秋になって変化したことに気付いている。 ②秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 ③みんなで遊ぶことのよさや、季節の自然物を使ってつくることの楽しさに気付いている。	①秋の自然の中で活動したことを振り返りながら、季節の変化や特徴について友達と伝え合っている。 ②比べたり、試したり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫して作っている。 ③みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したり、相手に遊び方をわかりやすく伝えたりしている。	①秋を見つけたいという思いをもって、季節の変化を探したり、秋の自然と関わったりしようとしている。 ②友達の意見を取り入れたり、自分の気づきとの違いを生かしたりして、遊びを楽しそうとしている。 ③必要な役割を話し合ったり、協力して準備をしたりしようとしている。

## 7. 系統性



## 8. 本単元の指導にあたって

### (1) 教材観

本単元では、秋の自然と触れ合い、関わることを通して、夏から秋の変化を感じるだけでなく、見たり感じたりした秋を共有することで、より秋を身近に感じることをねらいとしている。児童が自ら季節の変化に気付いたり、身近な自然物に目を向けたりできるように、秋の自然の中へ子ども達を誘い、思う存分自然に浸らせ、友達と工夫しながら遊ぶ楽しさを味わわせるようにしていく学習である。

また、本校には校庭や中庭だけでなく、「うりこ山」という裏山がある。授業中だけでなく、休み時間も自由に散歩することができ、年間を通じて自然に触れ合う機会も多い。「あきとなかよし」の学習では、身近な自然物を収集したり、観察したりする活動だけでなく、教科書や図鑑を活用しながら、季節の変化や特徴に気付かせ、より一層自覚的な学びへと繋げていくことができる。

### (2) 児童観

本学級では、1学期の「なつとなかよし」の学習で、香里幼稚園の5歳児との交流活動を行った。泡遊びや泥遊びなど、自分が選んだ遊びをもとに、どうすれば5歳児も一緒に楽しめるのかを試行錯誤しながら準備を進め、小学校での夏の遊びに招待するという活動に取り組んだ。泡遊びを選んだ児童は、「泡で足湯をつくりたい」と大きなたらいに水と石鹸を混ぜて泡立てた場を用意したり、泥遊びを選んだ児童は、友達と協力しながらできるだけ深い穴を準備したりと、自分達のアイデアを形にしていくなかで良さを感じる姿が見られ、相手意識のある発言も増えていったように感じる。その一方で、自分の思い通りにならないと前向きに活動に取り組めない児童も見られる。

また、本学級の児童の半数が、入学前の段階で香里小学校との「あきとなかよし」の交流活動に取り組んでおり、秋の自然物を使った遊びや制作活動に見通しを持って取り組める児童が多い。しかし、幼児期の体験は児童によって個人差が大きく、制作活動の際には、なかなかアイデアが浮かばず活動に取りかかれない児童や、没頭してしまうあまり友達の意見を取り入れられない児童の姿も予想される。

### (3) 指導観

本単元では、「うりこ山での秋見つけ」と「秋のおもちゃづくり」の2回の幼小交流活動を設定している。生活科の単元に交流活動を位置付けることで、「ほし組さんと一緒に」、「ほし組さんのために」という相手意識を持った学習のサイクルとなることを期待している。5歳児を「お客さん」として招くのではなく、異年齢の交流を通して、それぞれの良さを認め合ったり、意見の違いを活かしてより良い制作へと繋げていったりする姿を価値づけていきたい。

また、「秋のおもちゃづくり」の活動においては、おもちゃを作ることが目的ではなく、試行錯誤を重ねたり、友達とひらめきを伝え合ったりする過程に重点をおいて指導にあたる。そのため、教師が作り方を提示したおもちゃを作るのではなく、児童が作りたいおもちゃや遊びを自分で選び、改良を重ねる時間を十分に確保できるようにする。

さらに、単元末には、1年生全体で「秋のおもちゃランド」の開催を予定している。クラスによって就学前児童施設との取り組みは少しずつ変わっていくことが予想されるので、最後に作ったおもちゃを持ち寄ることで、同じ素材でも多様な楽しみ方ができることに気付かせたい。異学年や同学年との交流を通して、自分と異なる考えに触れるおもしろさや仲間と認め合いながら協力する良さを実感できるようにする。

### (4) 育成をめざすコンピテンシーと指導上の工夫【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】

#### ①Communication【言葉による伝え合い】

1回目の幼小交流活動「うりこ山での秋見つけ」では、「コミュニケーション」の育成をねらいとする。1グループの人数を5歳児と1年生を合わせて5人程度にしたり、収集したものを共有の透明の袋（右記写真）に入れたりするなど、異年齢でも自然な対話が生まれるように、環境設定を工夫していく。

【自然物を収集する袋】  
・グループで共有の袋  
・透明な素材  
・収集したものを見比べながら、対話が生まれることを期待する。



#### ②Collaboration【協同性】& Creativity【思考力の芽生え】

2回目の幼小交流活動「秋のおもちゃづくり」と単元末の「秋のおもちゃランド」の活動では、「コラボレーション」と「クリエイティビティ」に重点を置いて学習を展開していく。交流活動では、児童が作りたいものに合わせておもちゃづくりコーナーの準備を進める。5歳児との交流活動に向けて、教師が提示したおもちゃを作るだけでなく、児童自身で作り方を調べたり、ひらめいたことを試したりするなど、おもちゃづくりを通して自分たちの思いを形にしていくなかで良さに気付かせたい。そして、自分達が準備したことだけでなく、5歳児の思いや願いを聞きながら制作に当たること、多様な考えを認め合い、自然と協力する姿が生まれるような活動となることを期待している。教師主導の制作活動ではなく、児童のひらめきやつぶやきを繋いでいくような教師の関わりを心がける。

9. 単元の指導計画と評価計画（本時 12/15）

単元で付けたい力	自分の考えだけでなく、他者の意見を尊重しながら、秋を楽しんだり、協働的に秋遊びに使う物を工夫して作ったりすることができる。		
本単元における言語活動	<p>「あきとなかよしだいさくせん」</p> <p>①ほしぐみさんとの秋見つけ（幼小交流活動）</p> <p>②ほしぐみさんとの秋のおもちゃづくり（幼小交流活動）</p> <p>③秋のおもちゃランド（1年生全体）</p> <p>秋のものを使って制作することや遊ぶことを楽しむために、秋の自然物を利用した遊びの面白さに気づいたり、異年齢や同学年との考えの違いを生かしたりすることで、生活を楽しくすることができる。</p> <p>（関連：思考・判断・表現③、主体的に学習に取り組む態度②）</p>		
言語活動の設定理由	5歳児との交流活動や学年での「秋のおもちゃランド」の活動を設定することで、自分の考えだけでなく、他者の意見にも耳を傾けながら、学びを深めることができると考えたため。		
育成をめざすコンピテンシーの設定理由	自分の思いや願いを大切にしつつ、他者の意見に耳を傾けたり、柔軟にアイデアを取り入れたりする良さに気づくことで、協働的に学ぶ素地を養って欲しいため。		
次	学 習 内 容	指導上の留意事項 ※コンピテンシー育成への工夫 についても記入	評価規準・評価方法等 ※育成をめざすコンピテンシー
1	1 秋について知っていることや、幼児期に体験したことのある秋の遊びを出し合い、秋探しや秋遊びの計画を立てる。	シンキングツールを活用して幼児期の体験を視覚化することで、秋探しや秋遊びの意欲を高めることができるようにする。	【主体的①】 秋を楽しみたいという思いをもって、秋探しや秋遊びの見通しを立てようとしている。 発言分析
2	2 校庭や中庭、うりこ山を事前に探検し、秋の特徴を見つけたり、次の活動への見通しを立てたりする。	「ほし組さんとの秋見つけの前にはしておくべきこと」を問いかけ、児童のアイデアで活動を進めることができるように働きかける。	【知識・技能①】 校庭の自然の様子が夏から秋になって変化したことに気づいている。 行動観察・発言分析
	3 5歳児と一緒にうりこ山を探検しながら、諸感覚を使って秋の植物を観察したり、木の実や落ち葉など秋の自然物を収集する。 (10/16 幼小交流①)	自然物の収集の際には、グループで共有の透明な袋を活用する等、異年齢での自然な対話が生まれるように環境設定を工夫する。	【主体的①】 秋を見つけたいという思いを持って、うりこ山の変化を探したり、秋の自然と関わったりしようとしている。 行動観察・発言分析  ※Communication
3	4 色や形、においに着目したり、夏の様子と比較したりしながら、収集した自然物を観察する。	諸感覚を使って秋の自然物を見つめ直すことができるようにする。 ※国語科「はっけんしたよ」と関連付けた指導	【思考・判断・表現①】 秋の自然物を観察したり、自然の中で活動したことを振り返りながら、季節の変化や特徴について友達と伝え合っている。 行動観察・発言分析
	5 収集した秋の自然物の仲間分けを行い、その根拠を友達と伝え合う。	シンキングツールを使った対話を行うことで、グループの考えを整理・分類し、新たな気づきや問いが生まれるようにする。	【主体的②】 5歳児の意見を取り入れたり、自分の考えとの違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。 行動観察・発言分析
	6 5歳児の願いをもとに、秋の遊びや秋の自然物を使ったおもちゃづくりの計画を立てる。	事前に行ったアンケートをもとにグループ分けを行い、自分たちが取り組みたいことと5歳児の思いをすり合わせながら、準備を進められるようにする。	※Creativity

4	7	屋外で自然物を利用して遊んだり、タブレットで記録したりする。 （「自然の顔」のフィールドワーク）	自然物の凹凸や模様に着目して、見立てる楽しさに気づくことができるようにする。 ※国語科「なにに見えるかな」と関連付けた指導	【知識・技能②】 秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 行動観察・発言分析
	8	教室で自然物を利用して遊んだり、作品づくりに取り組んだりする。 （絵本「ばけばけはっぱ」を参考にした制作活動）	秋の素材の良さを生かして作品づくりに取り組むことができるよう、形や色からイメージを広げられるようにする。 ※国語科「なにに見えるかな」と関連付けた指導	【思考・判断・表現②】 比べたり、見立てたりしながら、秋の自然物を使って作品を工夫して作っている。 行動観察・作品
	9	これまでの活動を振り返り、秋の遊びや秋のおもちゃづくりに生かせそうなことを伝え合う。	教師が撮影した活動中の写真や動画を提示することで、自分の活動を絵や言葉で伝えられるようにする。	※Creativity
5	10	うりこ山や校庭などで見つけた秋の自然物と、身の回りから集めた材料を使って、秋のおもちゃを作る見通しを立てる。	おもちゃの作り方の動画や図鑑を提示することで、基本の作り方のイメージを持つことができるようにする。	【思考・判断・表現②】 比べたり、試したりしながら、秋の自然物を使ったおもちゃを工夫して作っている。 行動観察・作品
	11	秋の自然物や身近にあるものを利用して、おもちゃを工夫して作ったり、それらを使って遊んだりする。	5歳児との交流活動に向けて、相手意識をもって作り方を工夫したり、調べたりする姿を価値づけるようにする。	【主体的②】 友達の意見を取り入れたり、自分の気付きとの違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。 行動観察
	12	おもちゃの作り方を5歳児に紹介し、おもちゃづくりや秋の遊びを一緒に楽しむ。 （11/8 幼小交流②）	試行錯誤を重ねながら作品づくりに取り組むことができるように、遊びを試しながら制作に取り組める場や廃材や自然物の材料コーナーを準備するなど、環境設定を工夫する。	※Collaboration ※Creativity
6	13	楽しく遊ぶ計画を話し合い、「秋のおもちゃランド」を開く準備をする。	これまでの活動を振り返り、どんなものがあれば1年生みんなでもっと秋を楽しめるのかという視点で準備できるようにする。	【知識・技能③】 みんなで遊ぶことのよさや、季節の自然物を使っておもちゃをつくることの楽しさに気付いている。 発言分析・振り返りの記述
	14	「あきのおもちゃランド」を開いて、みんなで楽しく遊ぶ。	臨機応変にルールを変更したり、相手に合わせて遊び方を変えたりする姿を認め、価値づけるようにする。	【思考・判断・表現③】 みんなが楽しく遊べるようルールや約束を工夫したり、相手に遊び方をわかりやすく伝えたりしている。 行動観察・発言分析・作品
	15	これまでの活動を振り返り、秋の思い出や、秋の自然と自分との関わりについて伝え合ったり、記録したりする。	教師が撮影した写真や動画を提示することで、準備の過程や活動中の様子を詳しく振り返ることができるようにする。	【主体的③】 楽しい秋のおもちゃランドを開きたいという思いを持って、必要な役割を話し合ったり、協力して準備をしたりしようとしている。 行動観察・発言分析 ※Creativity

10.本時の学習

(1) 本時の目標

- 比べたり、試したりしながら、秋の自然物を使ったおもちゃを工夫して作ることができる。【Creativity】
- 友達の意見を取り入れたり、自分の気付きとの違いを生かしたりして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることできる。【Collaboration】

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動 ★発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎) 理解が不十分な児童への支援 (☆) コンピテンシー育成への工夫 (※)	評価規準・評価方法等 ※育成をめざすコンピテンシー
5分	○あいさつをする。 ○めあて(ねらい)を確かめる。	※おもちゃの完成がゴールではなく、おもちゃづくりを通して、多様な意見を認めたり、取り入れたりしながら試行錯誤する様子をねらいとする。	
導入	<p>めあて：「はなして」「ためして」「くふうして」 みんなでいっしょに、あきのおもちゃづくりをたのしもう。</p>		
35分	○おもちゃづくりの場を確認する。(7コーナー) ・あきのつりゲーム ・どんぐりにんぎょう ・まつぼっくりにんぎょう ・どんぐりごま ・どんぐりマラカス ・どんぐりころがし ・あきのしかけめいろ  ○おもちゃづくりと試しの遊びに取り組む。  ○中間の振り返りを行う。 ★「遊んでみて、うまくいかないことはどんなことですか。どこを変えればうまくいきそうですか。」 ・「どんぐりがうまく転がらなかったけど、材料の置き方を工夫すればいいかも。」  ○おもちゃづくりと試しの遊びを続ける。	◎事前に考えていた作り方だけでなく、5歳児の意見も取り入れながら柔軟に制作活動に取り組むことができるようにする。  ☆作り方の説明に見通しを持って取り組めるように、見本の作品を準備しておく。  ◎遊びを試す場所を用意することで、試行錯誤を重ねながらおもちゃづくりに取り組むことができるようにする。  ◎困っていることやもっとより良くできそうなことなど、現段階で活動を振り返り、後半の活動へとつなげることができるようにする。 (5歳児がおもちゃづくりや遊びに没頭できるように、全体の活動を止めての中間指導ではなく、ファシリテートに徹する。)	【思考・判断・表現】 比べたり、試したりしながら、秋の自然物を使ったおもちゃを工夫して作っている。 行動観察  ※Creativity
5分	○活動を振り返る。 ★「おもちゃづくりをしながら、ほし組さんとどんなお話をしましたか。試したことや工夫したこと、変えてみたことを教えてください。」 ・「最初に考えていたものと変わったけど、素敵なおもちゃになったよ。」  ○終わりのあいさつをする。	※一緒に作ってどうだったか、「コラボレーション」と「クリエイティビティ」の視点で問いかける。  ◎5歳児の振り返りも聞くことで、自分の取り組みを客観視したり、価値づけたりできるようにする。	【主体的】 友達の意見を取り入れたり、自分の気付きとの違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。 発言分析  ※Creativity ※Collaboration

日 案

令和6年11月8日(金) 5歳児 ほし組		男児16名 女児11名 計27名	保育者:藤井 沙知子
本日の主な活動		自然物を使っておもちゃ作りをする。(幼小交流)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生と一緒に、自分なりのめあてをもって、試したり工夫したりしながらおもちゃ作りを楽しむ。(思)</li> <li>・1年生とのおもちゃづくりを通して、一緒に試したり、分からないことを教えてもらったりしながら憧れの気持ちをもつ。(人)</li> </ul>		
時刻	環境構成	予想される幼児の活動	教師の援助・留意点
左に同じ	体育館 自然物 どんぐり 松ぼっくり 枝 落ち葉 等 みんなで使うもの セロテープ ビニールテープ ボンド ブルーシート ガムテープ グルーガン ダンボールカッター ダンボールの箱 空き箱 筒 ペットボトル プリンカップ 卵パック 等	○活動の流れを知る。 名札を付ける。 ○体育館に移動する。 持ち物 ハサミ、ホッチキス、下敷き 雑巾(カゴに入れて持って行く。) ○1年生と共に集まる。 ・渋田先生や1年生の話を聞く。 ・聞きたいことを発表する。 ○おもちゃ作りをそれぞれ始める。 ・どんぐりゴマ ・まとあて ・マラカス ・けんだま 等 ○集まり、活動を振り返る。 ○幼稚園に帰る。	・1年生との交流やおもちゃ作りに期待をもって参加できるように前もって今日の流れを幼児と共に共有しておく。(知・徳) ・不安を感じる幼児には、不安な内容を具体的に言葉にできるように援助し、安心して参加できるように援助する。(体) ・自分は何のゲームを作りたいかあらかじめ投げかけておくことで、めあてをもって参加できるようにしておく。(知) ・挨拶をきっかけに、話を聞く姿勢、雰囲気づくりができるようにする。(体) ・不安が安心に変わるように自分の気持ちを、言葉で伝える事ができるように援助する。(徳) ・幼児の「つくりたい」という気持ちを受け止めながら、話が伝わっていない時には、言葉を付け加える。(知・徳) ・「作りたいもの」に自分なりに向かい取り組もうとしているか見守り、また、緊張している幼児に個別に気持ちを受け止めていく。(知) ・1年生と制作活動に取り組む中で、教えられることだけでなく、材料を選んだり、こんな風にしたいという事を伝えたり、と主体的に遊ぶことができるように援助する。(体) ・自分たちの今まで経験してきたことで工夫したり、試したりしながら楽しむ事と1年生に知らなかったことを教えてもらう喜びを感じ、憧れの気持ちにつながるように言葉がける。(思・人) ・困っている幼児には、気持ちを受け止め、1年生にそのことを伝え、遊びがより発展していくようにする。(人) ・自分なりに、「できた!」「見てみて」という気持ちは十分受け止め、達成感や次への意欲につなげていく。 ・幼児の素直な思いを受け止めながら、その気持ちが具体的に言葉にして、相手に伝える事ができるように援助していく。(徳) ・また、教師からも幼児の具体的な姿を伝える事で、自分もしてみたい、幼稚園に戻ったら試してみよう!という気持ちにつながるように援助していく。(知)

学びの必然性のある単元デザインと評価の一体化  
～子どもの問いやつぶやきを引き出すしかけと支援～

1年生生活科学学習指導略案

指導者: 洪田

1.日時 令和6年 10月16日(水)2時間目

2.場所 うりこ山、中庭

3.学年 1年2組

4.単元名「あきとなかよしだいさくせん～ほしぐみさんといっしょにあきをたのしもう～」

5.研究テーマとのつながり<https://padlet.com/t39e0008/padlet-dy7pl9kb91nnnsv>

【◆ゴールデザイン(相手・目的)の意図 ◆自己選択・自己決定・自己表現の場の工夫 ◆ユニバーサルデザインの充実】

1年2組は、香里幼稚園のほし組とタッグを組み、交流活動を行う。小学校の裏山で秋みつけをいっしょに行ったり、秋の素材を使って共同制作に取り組むことで年長者の意識が芽生えることを期待する。

また、本時の「うりこやまでのあきみつけ」では、「コミュニケーション」の育成をねらいとしている。異年齢でも、自然な対話が生まれるように、収集したものをグループで共有の袋に入れるなど、環境設定を工夫していく。

6.本時の目標

異年齢との交流を楽しみながら、季節の変化や秋の自然を諸感覚を使って感じ取ることができるようにする。【5C+1の視点:コミュニケーション】

7.本時の展開

時間	学習活動	教師の動き 主な発問・指示	◎評価の観点 ★指導上の留意点・支援
9:35～	①1年生下足場前で集合 あいさつ・めあての確認  「おはなしたのしみながら、あきを見つけよう。」	・活動グループと人数確認をする。 ・活動のめあて、活動の約束を伝える。  ◆うりこやまのやくそく ①はしらない ②ひとりにならない ③「もどるよ」のこえがきこえたら、もどる。	★対話生まれやすいように、1チームの人数を5人程度で構成する。  【1年生】 2人...8チーム 3人...5チーム  【ほし組】 2人...12チーム 3人...1チーム
9:40～	②秋みつけ ・うりこ山 ・南中庭 ・北中庭	・秋のものを見つけるだけでなく、五感を使って、秋を楽しめるように声かけする。  「なつからあきにかわって、どんなちがいがあかな。」 「あきのおとやあきのおいってどんなかんじだろう。」	★対話を生むことができるよう、班に1つの収集袋を渡し、見つけたものはその袋に入れるようにする。  ◎諸感覚を使って、学校内の自然を観察したり、関わったりすることを通して、季節の変化を感じている。【思・判・表】 ◎異年齢との交流を楽しみながら、活動しようとしている【態】
10:10	③うりこ山入り口付近で集合し、活動を振り返る。  ④終わりのあいさつ	・交流活動をしてどうだったか、【コミュニケーション】の視点で問いかける。 ◆ほし組 「1年生と秋みつけをして、どうでしたか。楽しかったことや勉強になったことを教えてください。」 ◆1年生 「ほし組の友達と秋みつけをして、どうでしたか。発見したことや気づいたことを教えてください。」	◎ザワザワした様子であれば、気持ちを前に向ける手遊びを行う。  ◎次回のほし組との製作活動に向けて、楽しい気持ちを持つことができるように前向きな言葉を引き出す。 相手意識や目的意識のあるつぶやきを取り上げる。

## 日 案

令和6年10月16日(水) 5歳児 ほし組		男児16名 女児11名 計27名 保育者:藤井 沙知子	
本日の主な活動		○1年生と「うりこ山」で秋の自然物を探す。	
ねらい	・1年生と一緒に、秋の自然物を探したり、集めたりを楽しむ。 ・1年生に思いを伝えたり、聞いたりしながら関わる。		(思・自然との関わり) (徳・人と関わる力)
時刻	環境構成	予想される幼児の活動	教師の援助・留意点
9:35	準備物 透明の採集ケース(グループ1つ)	○小学校の1年生の下足箱の前に集まる。 ○「うりこ山」での約束を聞く。 ○1-2の友達とグループに分かれる。 (5人程度のグループ)	○今日の活動に見通しをもったり、関わりに期待をもったりして集まることができるように投げかけておく。 (体・元気、笑顔) ○自ら危険のないよう行動しようとする気持ちもてるように投げかける。 (知・自立心) ○1年生に会えたことに嬉しい気持ち、ドキドキの気持ちを言葉にできるように教師も言葉で伝えていく。 (徳・言葉による伝え合い)
9:40	うりこ山 落ち葉 木の実 果実 虫・鳥 影・日向 木・枝 草村 水 崖 坂登り、下り 切り株 等	○「うりこ山」探検に行く。	○秋の自然の中で発見したり、触れたりしながら、心を動かす体験ができるように関わる。 (思・自然との関わり・生命尊重・好奇心・探求心) ○1年生とのグループ行動が初めてなので、発見したものについて伝えたり、1年生の話の聴いたりできるように投げかけておく。 (徳・人と関わる力) ○幼児の気づいたことに、楽しい気持ちに共感し、幼児自身が周りの友達に共感していく気持ちが育つように関わる。 (徳・共感) ○幼児の発見・疑問を友達や1年生に知らせ、関わりのかきかけとなるように援助する。 (徳・人との関わり) ○発見した自然物を使って遊び始める幼児がいた時には、その遊びが幼稚園に持って帰った時に友達に言葉で伝える事ができるように写真、動画で記録して、幼児が思い出せるようにしておく。 (徳・言葉による伝え合い)
10:10		○うりこ山入口付近に集まる。 ○活動の振り返りをする。	○幼児の気持ちに共感しながら、発見したものや気づいたことを紹介していき、他児に広めていく。 (体・自己肯定感) ○1年生との関わりや伝えたり、聞いたりしたことやうまくいったことなど具体的に紹介することで、人と関わる方法が身に付いていくようにする。 (徳・人との関わり)
10:25	図鑑、絵本 幼稚園に帰って見ることができるように準備しておく。	○1年生の終わりの挨拶を聞く。 ○再びうりこ山で遊ぶ。 (幼稚園児のみ)	○1年生に教えてもらった道や場所、ものなどクラスの友達同士でも共有していけるように幼稚園児のみでも遊ぶ時間をもつ。 (思・自然との関わり・生命尊重・好奇心・探求心)

○研究会(令和6年 11月8日 金曜日)

指導・助言…関西国際大学 椋田善之氏

### 5歳児 ほし組

#### <遊びの経過>

1学期に、夏の遊びを通して1年生との交流を楽しんだ。幼稚園でも楽しんでいる夏の遊びがテーマだったため、遊びに期待をもっていた。1年生のダイナミックな遊びにびっくりしながらも、時間と共に遊びが盛り上がっていった。この時には、積極的に遊びを楽しむ子、少し遠慮もある子、教師と共に関わりをもつ子と様々な姿があった。

10月16日に2回目の交流で「うりこ山」に探検に行った時には、うりこ山に目を輝かせ、秋の自然に主体的に関わる姿があった。グループを作り活動したことで「1年生がやさしかった」「松ぼっくり見つけてくれた」など相手に具体的な思いをもつようになった。運動会后、年長としての自信が育っていたこともあり、緊張も少なくなって担任教師を求める幼児はいなくなった。その後、秋の自然物を使った遊びがクラスでもたくさん始まった。

うりこ山で



幼稚園で



楽器作ったよ!



# 研究協議会資料

- 架け橋事務局より
- モデル地域3年間のあゆみ
- 授業者、保育者より

# 架け橋事務局より

令和6年度 枚方市学校園活性化推進校園事業  
 幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業  
 香里小学校・香里幼稚園 公開授業・研究発表

## 架け橋事務局より 3年間の取り組みについて



1年生 令和6年4月 うりこタイムの様子

枚方市教育委員会 児童生徒課  
 支援教育課  
 教育研修課  
 教育指導課  
 枚方市役所 私立保育幼稚園課  
 公立保育幼稚園課

- 1 -

## 幼保こ小の連携の必要性

友達関係がうまく築けない子が増えているな...

幼稚園では自己発揮していたと聞くけど、小学校での様子は違うんだけど...

不登校になる子どもが増えているよね...

気持ちのコントロールができない子が増えているのよね...

小1プロブレム...  
 今までこんなことはなかったのになぜ?

- 2 -

## 令和4年度、こうして、取り組みが始まりました!

### 平成20年改訂 学習指導要領

○活動や体験を一層重視するとともに、気付きの質を高めること、幼児期の教育との連携を図ることなどについて充実を...

### 平成29年改訂 学習指導要領

○入学当初をはじめとした低学年の時期において、生活科が中心的な役割を担いつつ、各教科等との合科的・関連的な指導の一層の充実をはかることが求められている。これは、一部にみられるような小学校入学期の見の適応指導を意味しているのではない。幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期の実態を理解し、自覚的な学びとして期待する児童の姿を共有することが出発点となる。

○幼児期の教育と小学校教育の接続と共に、低学年の2年間における児童の成長や第3学年以上の学習への接続にも留意することが大切である。

○指導計画の作成に当たっては、児童の成長や発達を見通し、2学年間の中で具体的な活動や体験が拡充されるようにすることが大切である。これらためには、学年による発達の特性に十分留意し、体験や気付きの質が着実に高まるような工夫をすることが求められる。

### 【文部科学省】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)

○「幼保小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、すべての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを旨とする。本プログラムは、架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したものであり、関係者の負担軽減に留意しつつ、各地域や施設の相違工夫を生かした、取り組みが広がり、深まっていくことを期待しています。

- 3 -

## 対話から、コンパスへ

【文部科学省】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿  
 正しい理解

環境構成や子どもへの関わり方に関する工夫の見える化

家庭や地域への普及

ウェルビーイングを保障

0~18歳の学びの連続性に配慮



- 4 -

モデル地域である香里小校区の取り組みを参考に  
全校区が取り組んできたこと

- ① 互いの教育目標、保育目標を知り、  
『大切にしている活動・育てたい資質能力』について語り合う  
令和4年度
- ② 共通している、『大切にしている活動・育てたい資質能力』について、  
フォトチャットなどの対話を通して意見交流し、『クローバー図』に整理  
令和4年度
- ③ クローバー図の視点で、参観や交流活動を振り返り、時期ごとに  
つながりを整理して、香里小版架け橋コンパスを作成  
令和5年度
- ④ 校区の特色である自然環境を生かした、生活科の授業の質を向上  
させながら、香里小版架け橋コンパスを検証  
令和6年度

モデル地域である香里小校区を参考に  
全校区で取り組んできたこと

- ① 校区別に小学校、公立私立就学前施設の先生方が顔を合わせ、架け橋期  
の子どもたちに対する願いや思いを語り合うところからスタート  
令和5年度
  - ② 育てたい子ども像について、5C+1を共通の視点として対話  
令和5年度
  - ③ 香里小校区の架け橋コンパスを参考に作成された、  
枚方版コンパスを元に、校区版架け橋コンパスを作成  
令和6年度
- モデル地域である香里小校区より1年遅れ  
て他校区の取り組みが進んでいます

幼児教育の重要性について改めて考えてみる

幼児教育は・・・  
教育のスタートは幼児期にあり。  
幼児教育の充実を回る。  
小学校は・・・  
幼児期に育まれた資質・能力を基礎として、  
各教科でさらに伸ばしていくこと

小学校と幼稚園、保育所等が一緒になり、子どもの  
何ができていて、何を苦手としているのかなどの  
姿を共有し、お互いでどのような教育を行っていく  
のかを話し合い、実践していく。

小学校以降でのつまづきを防ぎ、学力向上に  
つながる。学ぶ意義や楽しさを感じ、不登校  
減少にも大きな効果を発揮

相互理解には、子どもを見ることが  
大切  
～授業参観・保育参観  
さらには合同で授業・保育を  
行うこと～

日本教育新聞 2024年(令和6年)3月25日(月) 『提言』より抜粋

令和7年度・・・ウェルビーイングへ!

令和6年度 → 令和7年度

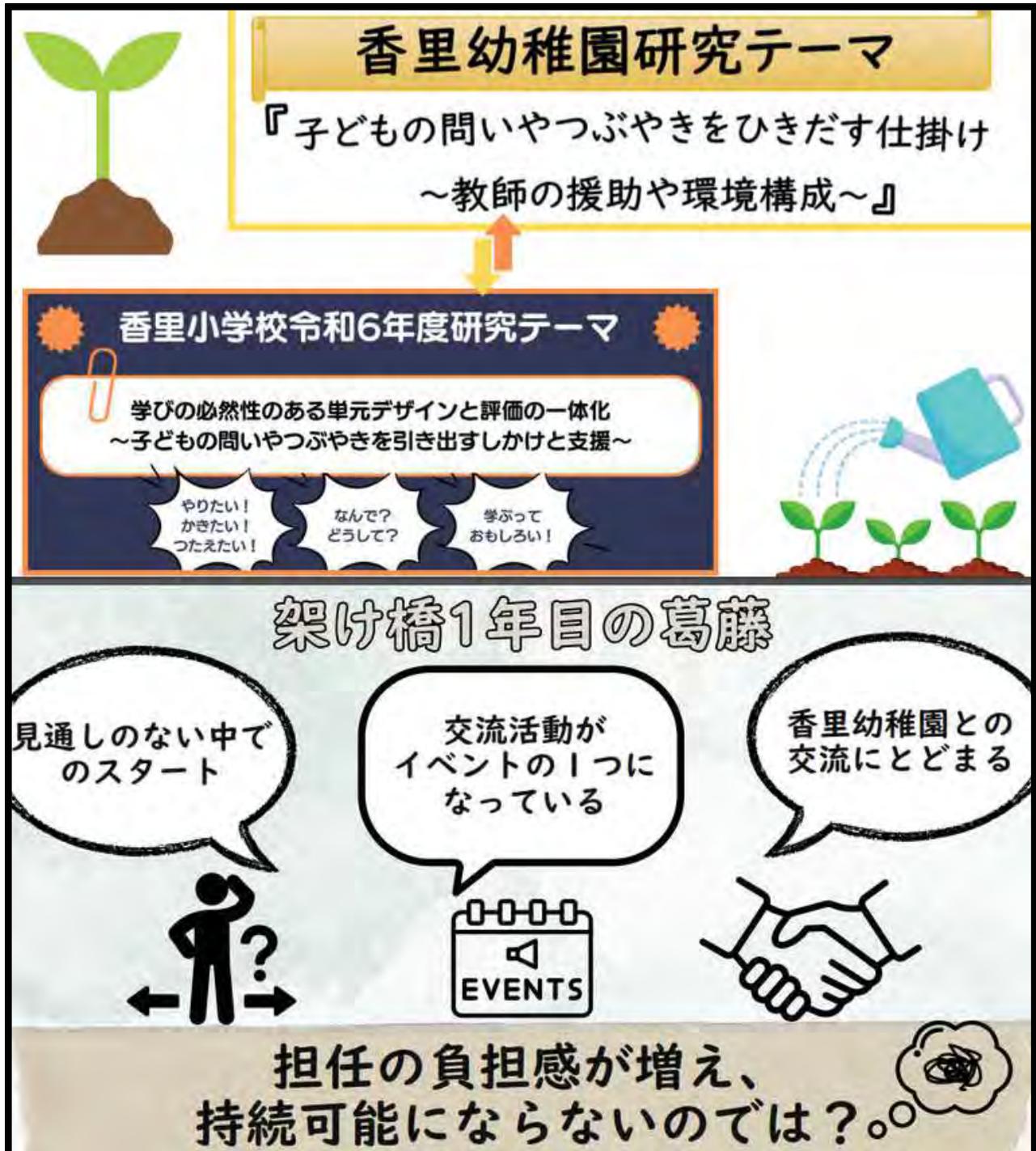
コンパスの作成  
交流行事の実施  
スタートカリキュラムの実施・改良  
就学前施設との連携・打ち合わせ

コンパスを基にした  
さらなる子ども理解  
子ども主体の授業・保育づくり  
学び・遊びの質の向上

この後のモデル地域からの発表に、校区の取組  
を推進していくためのヒントがたくさんあります!

# モデル地域

## 3年間のあゆみ



## 架け橋1年目を終えて

5歳児と1年生が  
交流する良さ



担任同士の本音を  
語り合う大切さ



各就学前児童施設の  
大切にしていることを  
知る機会の必要性



負担感<取り組む価値

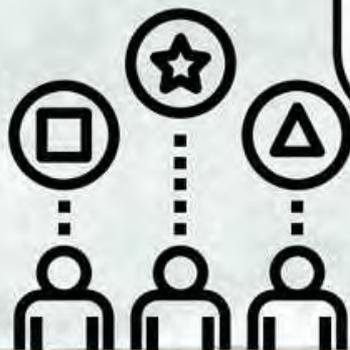


## 架け橋1年目 就学前の視点から

幼稚園・保育所・  
こども園の違い

公立・私立の違い

活動内容の違い



地域の就学前がつながる必要って本当にある？



## 幼児教育・保育の視点

- ・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領
- ・ 10の姿
- ・ 方向目標

## 小学校教育の視点

- ・ 学習指導要領
- ・ 3つの資質・能力
- ・ コンピテンシー（5C）
- ・ 到達目標



## 共通の視点「クローバー図の作成」

### 架け橋2年目に見えてきたこと

#### 1年目の反省

見通しがない負担感

交流活動のイベント化

地域の就学前児童施設とは交流できていない現状



#### 2年目の変更点

年度当初に幼保こ小の  
カリキュラムのすり合わせ

生活科を軸にした  
交流活動の打ち合わせ

クラスごとにタッグの  
就学前児童施設を決めた  
交流活動

# 架け橋2年目の交流活動の様子

1-1  
香里ヶ丘保育園



1-2  
香里幼稚園



1-3  
香里団地、香里敬愛



1-4  
藤田川、みずき敬愛



1年生全体  
勝山愛和香里ヶ丘幼稚園



令和5年度の取り組み

## 架け橋2年目 就学前から見たメリットは？

### 小学校の見通しが持てる安心感

6園交流

モデル地域での  
幼小交流活動

クローバー図を  
活用した  
子どものみとり

遊びと学びのつながりの実感





うりこたいむの  
ふりかえり

ねんども  
できたらいいのに！

ひとりじゃなくて、  
ふたりでよおと  
もっとたのしめたよ！

「みんななかよし」  
うりこたいむ

かたち  
あそび

むかしあそび

おしえてもらって  
できるようになったよ！

ありがとう

めりえ

どくしょ

じぶんのじゃなくても  
かたづけてあげたよ！

5年生  
勝山愛和香里ヶ丘幼稚園

運動会演技の  
相互鑑賞会

サークルトークと  
学校案内スタンプラリー

5年生は次の最高学年として、  
5歳児は次の新入生として…  
【アプローチカリキュラム】

# 授業者・保育者より

今日の授業について

生活科合同授業  
「あきとなかよし」

合同授業、いかがでしたか？



- ・遊んでるだけに見えたけど…
- ・わざわざ交流せんでもいいんちゃう？
- ・距離が近いからできるんちゃう？

## 授業者・保育者の思い



- ・ 教師の指示通りではなく、いかに子どもたちから引き出せるか…。
- ・ 5歳児をお客様扱いせず、異年齢の交流の価値を高めるには…。
- ・ どの学校でも持続可能となるように、45分をどうデザインするか…。

## 双方の視点ですり合わせていくと…

### これまでのイメージ

- ・ 5歳児を招いて、一緒に遊ぶ。
- ・ 決められた材料、決められた手順で一緒に作る。
- ・ 1年生は完璧に準備しておかないと！

### 今回の意図

- ・ 5歳児をお客様扱いせず、一緒に楽しむ。
- ・ 子どもたちの願いをもとに、多様なアイデアを価値づける。
- ・ 完成品の出来栄ではなく、試行錯誤を大切に。

## 就学前の 視点から



# 架け橋プログラムから得た学び

## •遊びから学ぶ子どもの姿を大切に

「その遊びからどのようなことを子どもたちが学んでいるのか」をみとめる大切さ、「その学びがどのように小学校につながっているのか」を考えながら保育にあたる大切さを実感。

## •就学前児童施設の違いが、子どもの違いにならないように

私立・公立、幼稚園・保育所・子ども園と就学前児童施設の違いが、子どもの姿の違いとならないように、クローバー図の5C+1の視点を自分の保育に生かしていく。

## •幼児期の学びを小学校につなげていく連携を大切に

就学前児童施設で様々な遊びを通し学んだことが、1年生になってゼロからのスタートとならないように、「子どもの姿」を伝える連携となっているかを振り返る。

「あきとなかよし」  
交流活動に向けての  
単元デザイン

## ★クローバー図の5C+1の視点で、 コンピテンシー（資質・能力）ベースの単元構想

双方のねらいに合わせた学習展開、場の設定、教師の関わりは…

### 単元計画

#### ◆生活科「あきとなかよし」単元の導入

【架け橋交流①】…「コミュニケーション」  
おはなしをたのしみながら、あきを見つけよう。

【架け橋交流②】…「コラボレーション」  
あきのおもちゃをいっしょにつくろう。

【単元末の活動】…「クリエイティビティ」  
1ねんせいのみんなで「あきのおもちゃランド」をひらこう！





## 自然な対話が生まれることを期待して…



●1人1枚ではなく、  
グループで共有のものに！

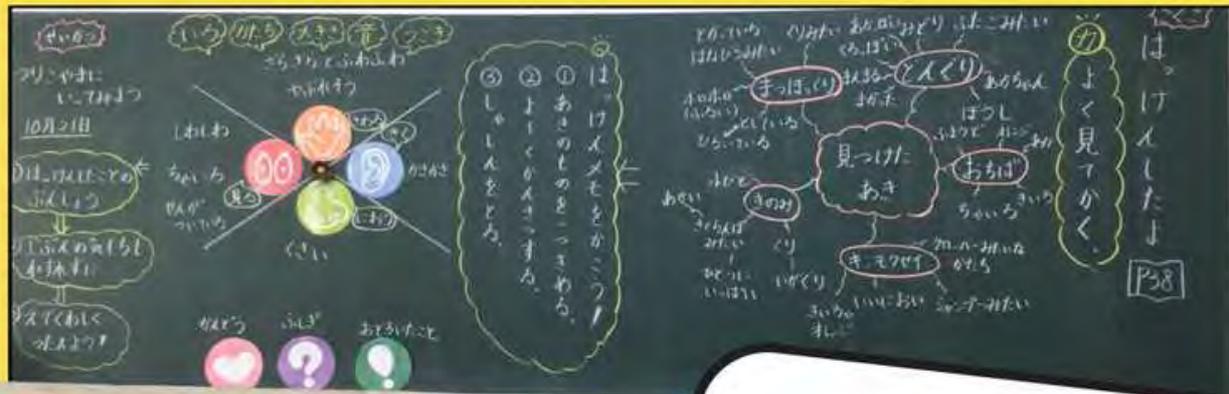
●適当な袋や箱ではなく、  
透明な袋を肩にかけられるように！

#ねらいに合わせた教具の工夫  
#就学前の環境設定に学ぶ



★「秋見つけ」本番  
・年長者としての姿  
・秋と一緒に楽しむ姿  
・新しい気づき、発見

#目的意識  
#相手意識



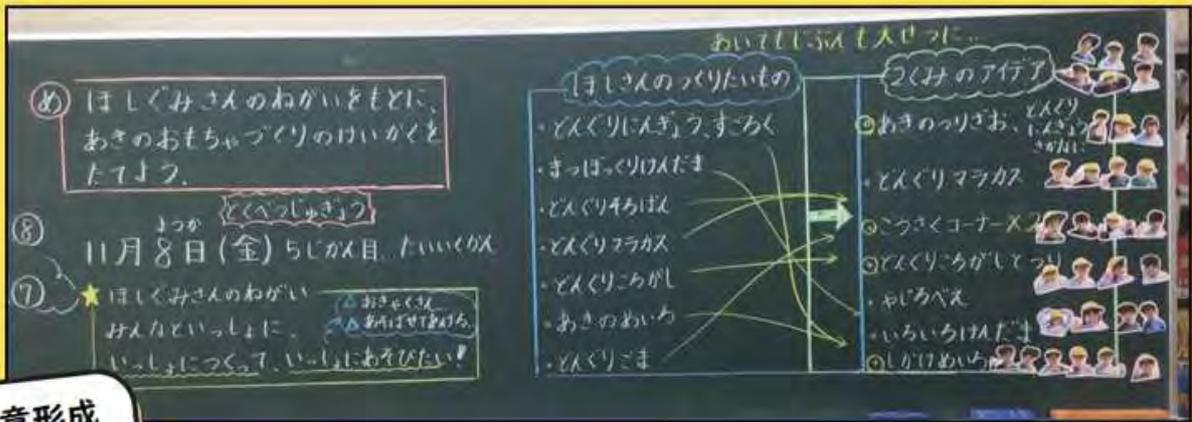
- ◆収集したものを見つめ直す時間
- ・国語「はっけんしたよ」と関連づけて指導
- ・ことばの力は、「よく見てかく」
- ・発見メモをもとに、観察カードの記入

#教科横断的な学び  
#カリキュラムマネジメント

## 秋の自然物の仲間分け



#対話の数だけ  
答えがある



#合意形成  
#試行錯誤

★秋のおもちゃづくりに向けて

おもちゃの  
アイデアを  
出し合う

ほし組さんの  
願いを聞く

一緒に  
作れるように  
試行錯誤

一緒に作って、  
一緒に遊ぶ

## 架け橋プログラムから得た学び

### •幼児教育と小学校教育のグラデーションを大切に

幼児教育の中にユニバーサルデザインや探求的な学びにつながるヒントが見つかるかもしれません。小学校のあたり前を見直してみませんか？

### •教師主導ではなく、子どもが主役の授業に

「自立し、生活を豊かにしていく」ことが生活科の目標です。  
「教師が決め、失敗ないように管理する」のではなく、子どもに委ねる時間も大切にしてみませんか？

### •架け橋の交流活動⇨探求的な学びの素地に

架け橋の交流活動を生活科の単元デザインの軸に組み込めば、子どもたちのアイデアで、学びが自走していきます。出来栄ではなく、そこに向かう過程を大切にしてみませんか？



# 香里小地区架け橋プログラム

## 【令和5年度の取り組み】

R5年度 「なつとなかよし」 交流活動シート	
R5年度 「あきとなかよし」 交流活動シート	
R5年度 「あたらしい1年生をしょうたいしよう」 交流活動シート	
R5年度 「みんななかよしミニうんどうかい」 交流活動シート	
R5年度 成果報告 (管理職研修発表資料)	

# 取り組みまとめQRコード集

## 【令和6年度の取り組み】



<p>R6年度 国語科「こんなことしたよ」 単元構想シート</p>	
<p>R6年度 「なつとなかよし」 単元構想シート</p>	
<p>R6年度 「なつとなかよし」 交流活動シート</p>	
<p>香里小地区 架け橋コンパス</p>	
<p>本日の 研究協議会スライド</p>	

## おわりに

令和6年3月まで、私は「枚方市の他の小学校」から香里小学校の取組を拝見しながら、「幼保小連携」に取り組んでまいりました。正直なところ、本取組以外にも様々な業務があり、「無理はせず、できることから取り組んでいこう」「就学前児童が少しでも小学校に慣れる機会をつくり、安心して小学校に入学できるようにしよう」ぐらいの気持ちでした。そして、4月に本校に赴任しました。

その中で、一番感じたことは、職員が「無理をして」本取組を実施しているのではなく、「必要性」を職員自身が感じ、当たり前のように取り組んでいることです。私は、ある程度見通しの立った段階（取組3年目）で赴任していますので、それまでに本校に関わってきた方々の「苦労や葛藤」を、過去の経過を把握するたびに、感じています。また、本校だけでなく、就学前施設の方々同士の連携についても、大変なご苦労があったと聞いています。それが、こういった発表や本校の現状につながっていることに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

ただ、この架け橋プログラムもまだ3年目です。このプログラムを継続し、プログラムを受け続けて育った児童が高学年や中学生になったときに、どのような姿になっているのかが楽しみであり、これからの課題であると考えます。

香里小学校の今回の発表内容は、他の小学校の「未来」になる部分もあると思いますが、あくまで1つの可能性だと考えています。それぞれの小学校の状況に応じて、ブラッシュアップしていただき、就学前からの取組を、より効率的に小学校に繋げて、多くの子どもたちが未来の社会で「より輝ける」ようにしていただければと思います。

また、幼保小連携の取組を持続可能にするためには、教員の「働き方改革」がセットになると考えます。いい取組を継続し、他の業務と並行して取り組んでいくためには、管理職がどのようにマネジメントしていくのか、管理職としてこれからも考えていきたいと思っています。この度は、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

香里小学校 教頭 川野 竜弘



「わに」



「木の王子様がお姫様抱っこするところ」



「くちびるモンスター」



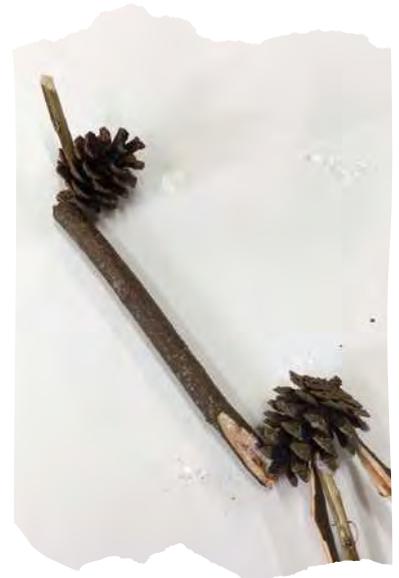
「くちばし恐竜」



「まつぼっくりの王様」

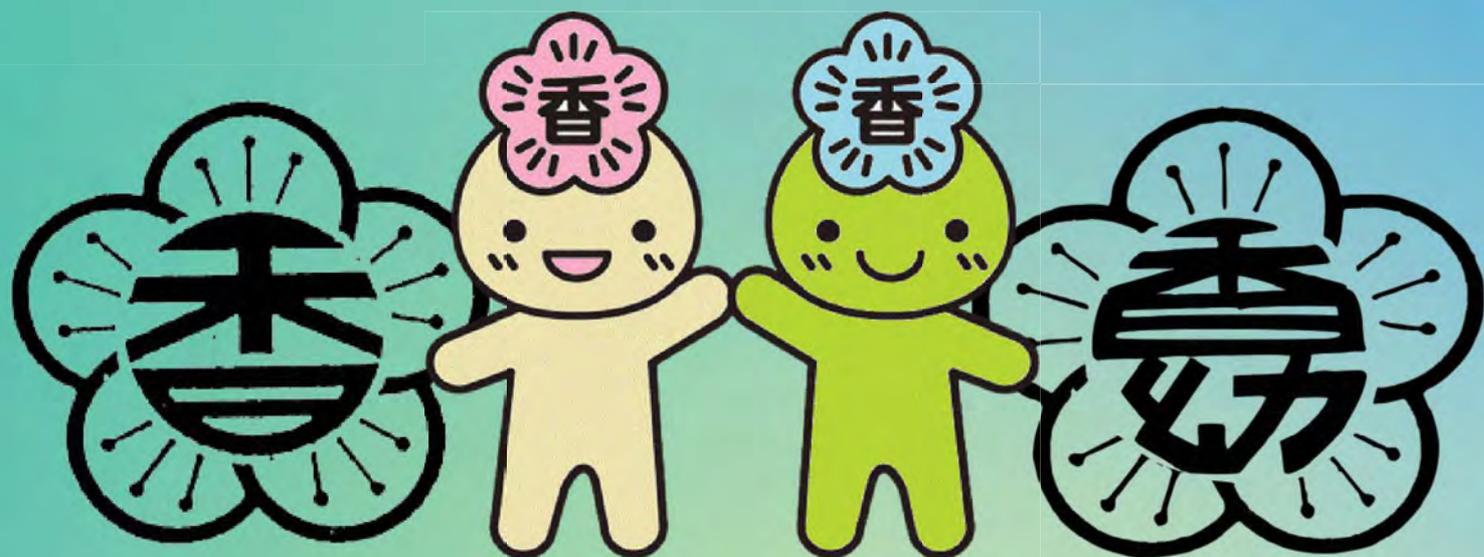


「チョウチョ」



「きりん」

なにに見えるかな？「しぜんのかお」・「ばけばけはっぱ」の作品  
児童のつぶやきを添えて…



令和6年度

幼保こ小の架け橋プログラム 公開授業・研究協議

枚方市立香里小学校・香里幼稚園

〒573-0084

大阪府枚方市立香里ヶ丘10丁目5-2

電話番号 050-7102-9012

本日の感想や質問は  
右記QRコードを読み取って  
投稿をお願い致します。

SCAN HERE

